

至近の石油市場情勢

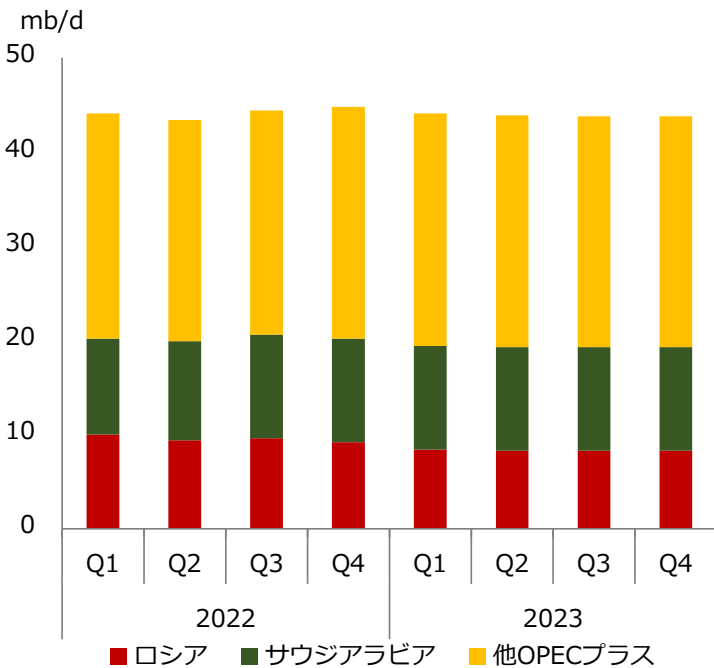
一般財団法人日本エネルギー経済研究所

化石エネルギー・国際協力ユニット 石油グループ

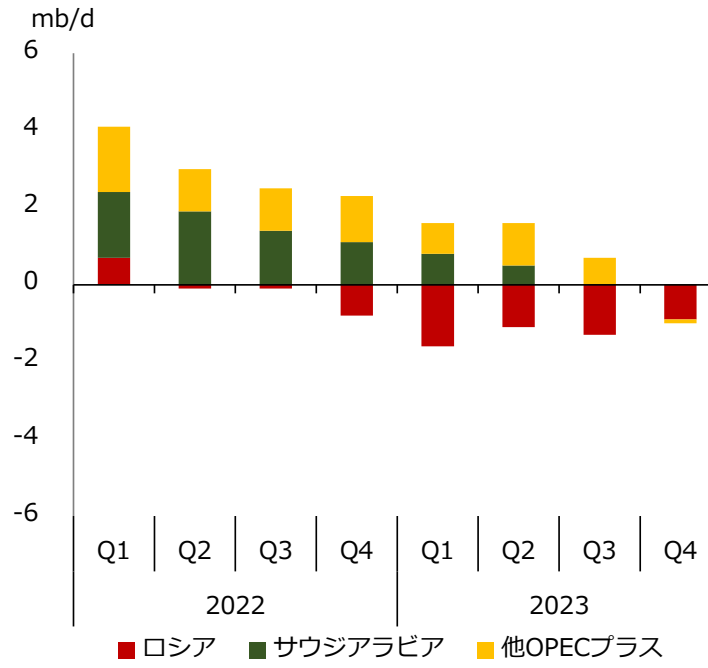
森川 哲男

OPEC+

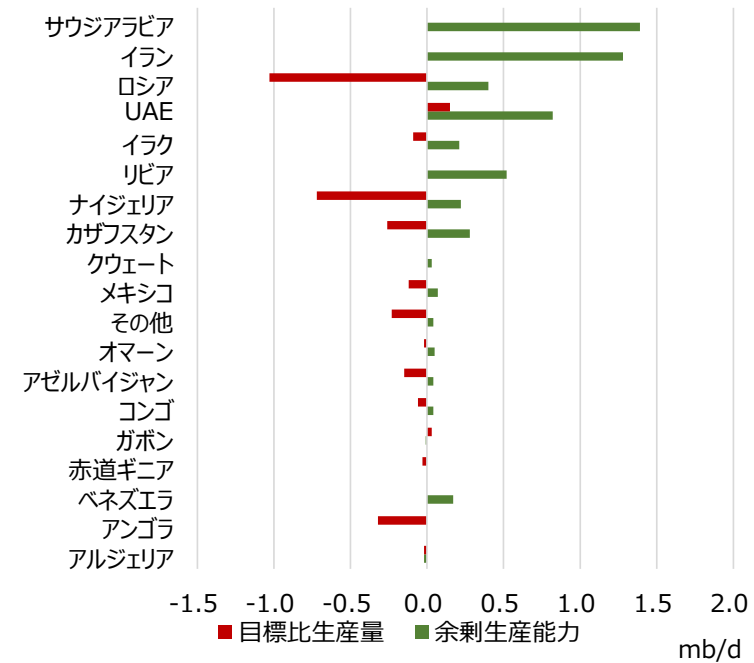
生産量



生産量増減 (前年同期比)



生産目標達成程度と余剰生産能力 (2022年7月)



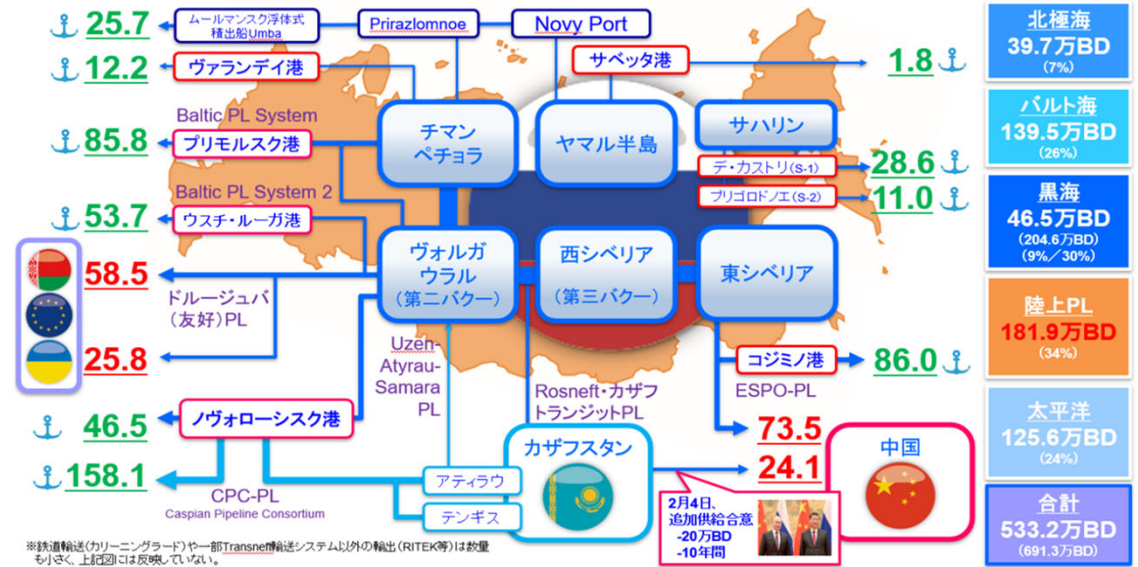
出所: IEA

- 8月3日の会合で9月の増産幅を10万b/dと決定。
- 米国の要請に最低限の配慮も、需要の不確実性や、実質的な増産余力がほとんどないことも背景。
- 実質的な余剰生産能力はサウジアラビア及びUAEがほとんどで供給途絶対対応能力は脆弱。
- 但し、核合意があればイランの余剰生産能力もカウントできる。

ロシアの石油生産・輸出

		mb/d		
		2022年 1-2月	2022年 7月	
生産量		11.39	11.09	
輸出量	原油・コンデンセート	5.0	4.8	
	石油製品	2.8	2.6	
	合計	8.0	7.4	
	内数	欧州向け	4.0	2.8
		中国向け	1.7	1.7
		インド向け	0.1	1.0
不明		1.0	1.6	

石油輸出ルート



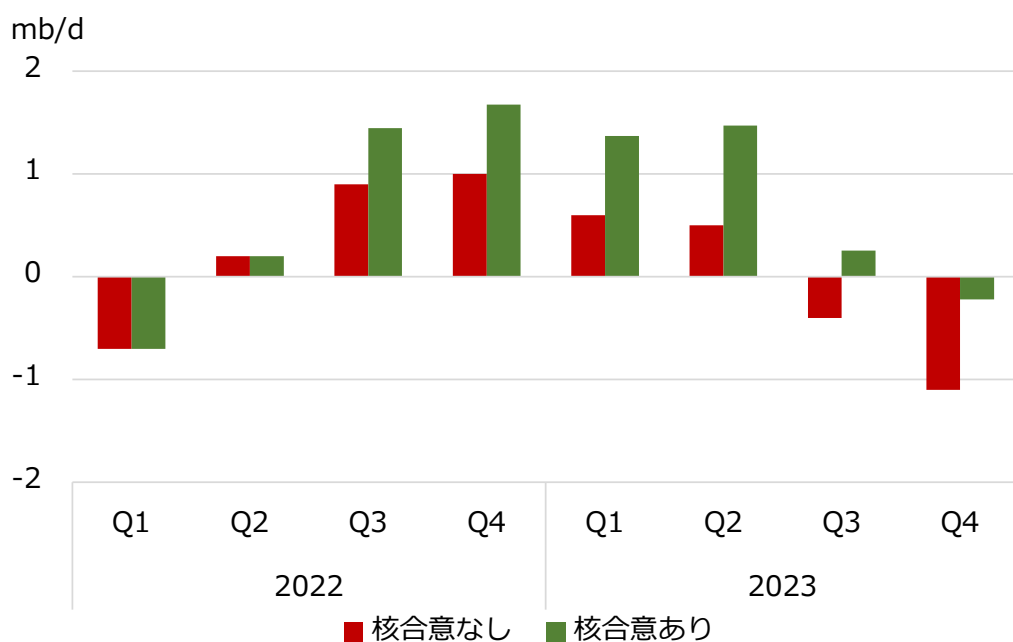
出所: IEA、JOGMEC

- 1-2月からの減少程度は生産量・輸出量ともに限定的。
- 中印等の輸入増が西側の輸入減少の大半を相殺。
- 欧州は第3国へのロシア産石油輸出を容認。
- IEAは2022年後半・2023年のロシア生産量を上方修正。
- ロシアは「非友好国」企業のSakhalin 1株式売却禁止。

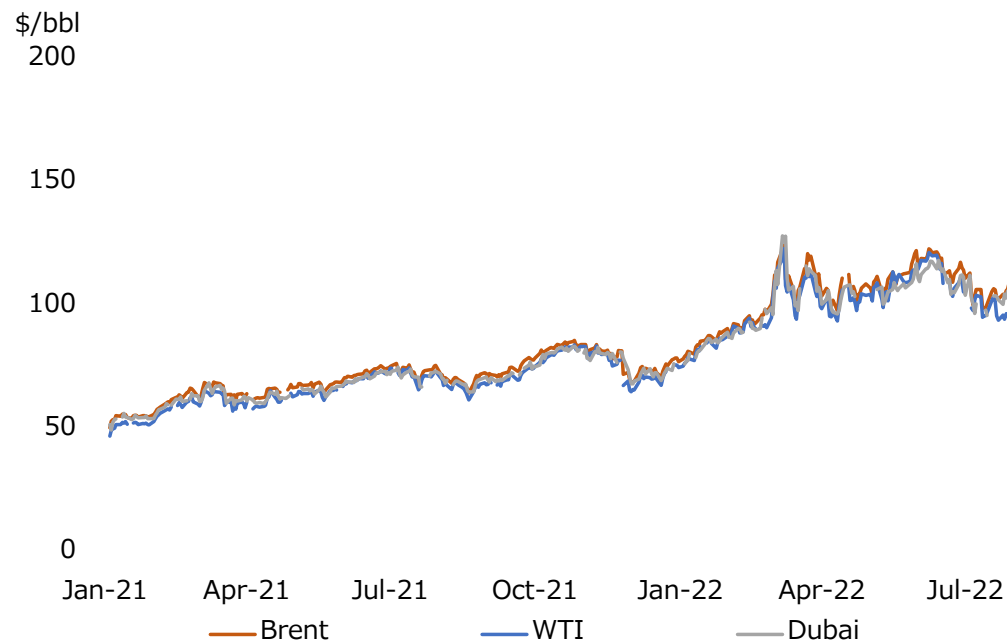
※鉄道輸送(カリニングラード)や一部Transnet輸送システム以外の輸出(RITEK等)は数量も小さく、上記図には反映していません。

需給バランスと価格

需給バランス



価格



出所: IEA、CME、ICE、日本エネルギー経済研究所

- IEA月報8月号(核合意なし) : 2023年前半までは供給超過も、需要の伸びに供給が追い付かず後半は需要超過に転ずると予測。
- 核合意あり : 2023年末にかけてイラン生産量は90万b/d増の可能性。需給は大幅に緩和。
- 景気後退リスク・需給緩和が意識され油価は7月から低下傾向。